

## 授業実践：「自己理解」啓発プログラム④

平成 30 年 12 月 19 日（水） 5 校時

糸満市立 光洋小学校

ひまわり 1 組 男子 5 名 女子 2 名 計 7 名

指導者 比嘉 瑞乃

### 1. プログラム名 「わたしのまわりの 応援団」

### 2. 領 域

自立活動 3 - (1) 【人間関係の形成：他者とのかかわりの基礎に関すること】

自立活動 6 - (5) 【コミュニケーション：状況に応じたコミュニケーションに関すること】

### 3. ねらい

○周りで支えてくれている人たちの存在に気付くことができる。

○自分から他者に手助けをお願いするスキルを身に付けることができる。

### 4. 児童の実態

本研究を進めるにあたって事前に行った児童への聞き取りアンケートでは、「困っている時に、周りの人をお願いすることができる」の項目に対する回答は、とてもできる 1 名、少しできる 2 名、あまりできない 4 名であった。この結果から、本学級の児童の半数以上が、困った時に周りに頼ることができないことがわかり、人間関係の基礎、コミュニケーションの基礎的能力に関わる課題が見えてきた。困った時に周りの人にどう聞いていいかわからないというスキルの面も含め、他者と関わって課題を乗り越える力を身に付けていくことも本学級の児童の実態だといえる。

こうした現状からも、自分自身の置かれている現状を受け止め、一人で解決することが難しい時には、言葉に出して伝え、他者の力を借りながら課題を解決していく力を習得させたい。

### 5. プログラム（教材）について

身近にいる、あたたかく、信頼できる人とのつながりは、人生を豊かにするだけでなく、困難や逆境から立ち直る力、立ち向かう力に重要な役割を果たす。いろいろな人が自分を応援してくれていると気付くことで、人とのつながりを感じ、安心して行動することができるものだと考えられる。そこで、本プログラムでは、普段あたりまえのように過ごしている日々の生活に深く目を向けることを通して、自分の周りには、いろいろな場面で支えてくれている人たちが多くいることに気付かせたい。また、本学級の児童は、困難な場面に直面した際に、自分から人に頼れず、どうしていいかわからないまま、不安を感じることも少なくない。そこで、生きていく上では、周りの人に頼りながら生きていくことも必要なスキルであると感じさせ、集団での学習を通して、スキル習得のきっかけとなる活動へとつなげていく。

### 6. 指導観

人は誰でも、その人なりの強みと弱みをもっていると思われる。そして、弱みに直面した際に乗り越えた経験は、逆境に立ち向かう力や、次なる挑戦意欲へつながることだと考えられる。自分で動く前から周りが助けてくれるのを待ち、頼っているだけでは自己の成長は得られないが、他者の援助も受けながら、目の前の課題を乗り越えていくことは、他者への信頼感を高めると同時に、人とのつながりで生きていることの安心感を感じさせてくれることだと思われる。

そこで、本授業では、周りにいる多くの人の支えがあって今の自分がいることに気付かせると同時に、困った時に自分から手助けをお願いできる力も育てられるよう、以下の点に留意して指導にあたる。

- (1) 周りからの応援を受けることでがんばってこれた経験を思い出せるよう、学校生活での他者との関わりの場面を写真で見せる。とくに、同年代集団とのつながりを感じさせられるよう、交流学級の友達との関わりを想起させる話題で活動を広げていく。

(2) 人との関わりを考えやすくするよう、「家庭生活」「学校生活」に二分した図を使い、全体での学びに生かす。それぞれの場面ごとに自分を支えてくれる存在を思い出し、人型カードに書いて拡大図に貼っていくことで、自分たちの周りで支えてくれている人の多さに気付かせる。

(3) 応援団は、直接そばにいて支えてくれている人だけでなく、手紙や電話などで励ましてくれた人など、様々な関わり方があることに気付かせ、より多くの面から他者とのつながりを感じられるようにする。

(4) 日常活動の取り組みを生かし、困った場面設定をテーマにした「すごろくトーキング」を作成し、授業のめあて②の「お願いトーキング」で活用する。

学級全体でのゲームを通して、自分ならそれぞれの場面状況で、誰に、どんな言葉でお願いしていくかを出し合っていく。児童から出てきたお願いの言葉は、吹き出しカードにまとめ、授業後、教室に掲示することで、実際の生活場面で似た困難場面に遭遇した際、参考にして活用できる支援ツールとしていきたい。

#### 7. 本時の準備物

生活場面の写真・パソコン・電子黒板・人型カード・すごろくトーキングシート  
拡大シート（「わたしの周りの応援団」貼り付けシート）・吹き出しカード  
ふり返しカード

8. 本時の展開

	学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点	評 価
導 入  5 分	1. これまでの学習活動を振り返り、自分を元気にしてくれる人やものについて交流する。	・ 勤労感謝の日のプレゼント作りを思い出させ、誰もが家族からたくさんのことをしてもらい、「ありがとう」の気持ちを感じていることに気付かせる。	
展 開          35 分	2. 今日のキーワードの提示	・ 本時のめあてに生かすため、「自己理解啓発プログラム」の4つ目のキーワードを提示する。  <b>今日のキーワード</b> 「き」→ <b>きみのそばにはいるよ</b> <b>たくさんのおうえんだんが</b>	
	3. めあて①の確認		
	☆自分を支えてくれている応援団をさがそう		
	4. 「自分を支えてくれている人」と聞いて思いつく人を発表する。	・ 「家」「学校」と生活場面を大きく二つに分けて考えさせる。  ・ 「家族」「友達」「先生」「交通安全のおじちゃん」など、児童から出てきた言葉を、拡大シートに貼っていく。	
	5. だれが、どんな時に支えてくれているかを思い起こし人型カードに書き出す。	・ 学校生活で、友達からの応援（支え）のおかげで成功へとつながられた経験を写真で振り返り、仲間とのつながりに関心を持たせる。  ・ 各自、人型カードに、誰にどんなことをしてもらっているのかを書き出す。書いたカードは黒板の拡大シートに貼り付けていくことで、自分たちの周りには支えてくれる人がたくさんいることを視覚的にとらえさせる。  ・ なかなか自分でカードを書き出せない児童には、1日の生活を教師と一緒に追いながら、各場面で自分に関わってくれている人たちを探し出していく。  ・ 人型カードが貼られた拡大シートを見ながら、いくつかの体験談を全体で共有し、応援してくれている人がいることに対する気持ちを発表する。	・ 周りで支えてくれている人たちの存在に気付くことができたか。

	学 習 活 動	教師の支援・指導上の留意点	評 価
展 開  35 分	6. めあて②の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周りに支えてくれる人がいれば、困ることはないのかを問い、支えてくれる人はいても、自分から関わっていかないと気付いてもらえないこともあることに気付かせ、めあて2につなげる。</li> </ul>	○自分から他者に手助けをお願いするスキルを身に付けることができたか。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">☆ お願いする時の言葉を考えよう</div> 「お願いトーキング」を進める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 困った場面設定を集めたすごろくシートを作成しておき、ルール説明のもと、ゲームを進めていく。</li> <li>・ ゲームを通して、自分ならそれぞれの場面状況で、誰に、どんな言葉でお願いするかを出し合う。児童から出てきたお願いの言葉は、吹き出しカードにまとめて黒板掲示する。</li> </ul>	
ま と め  5 分	7. 本時の振り返り      次時の授業の予告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 振り返りカードの3段階評価を記入する。</li> <li>・ 多くの人々に囲まれ、支えられて生きていることを再確認し、応援を力に変えて、自分らしくたくましく生きていくことを担任からのメッセージとして伝える。</li> <li>・ 一人ひとりが、ここにいる友達の応援団であることを伝え、学級全体で個を認め、励まし、応援する雰囲気大切にしていくことへの意識づけにつなげる。</li> <li>・ 次時は、自分発見のしめくくりとして、将来の自分に目を向けていく活動を進めていくことを予告し、「自己理解啓発プログラム」のまとめへの関心をもたせる。</li> </ul>	

## 9. 評価

○周りで支えてくれている人たちの存在に気付くことができたか。

○自分から他者に手助けをお願いするスキルを身に付けることができたか。